VBA エキスパート　公式テキスト

「Excel VBA スタンダード」演習問題

1 章　VBA の基礎

演習 1-1

次のコードは、「Book1.xlsx」を開くマクロである。【　①　】に入る記号を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    Workbooks.Open Filename【　①　】"Book1.xlsx"
End Sub
```

演習 1-2

次のコードは、セル A1 の値を、文字列型として宣言した変数「buf」に格納してから画面に表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    【　①　】 buf 【　②　】 String
    buf = Range("A1").Value
    MsgBox buf
End Sub
```

演習 1-3

次のコードは、すべてのモジュールで使用できる広域変数「tmp」を宣言して使用している。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
【　①　】 tmp As Long

Sub Sample3()
    tmp = Range("A1").Value
    Range("B1").Value = tmp * 2
End Sub
```

演習 1-4

次のコードは、セル範囲 A1:A10 のうち、奇数行のセルにだけ「小計」という文字列を入力するマクロである。【 ① 】と【 ② 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    Dim i As Long
    For i = 1 To 10 【 ① 】 2
        【 ② 】(i, 1).Value = "小計"
    Next i
End Sub
```

演習 1-5

次のコードは、セル A1 の数値が 100 より大きいとき、セル B1 に「Big」と入力し、そうでないときはセル B1 に「Small」と入力するマクロである。【 ① 】と【 ② 】と【 ③ 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample5()
    【 ① 】 Range("A1").Value > 100 Then
        Range("B1").Value = "Big"
    【 ② 】
        Range("B1").Value = "Small"
    【 ③ 】
End Sub
```

演習 1-6

次のコードは、ワークシート「Sheet1」の名前を「合計」に変更し、続いてワークシート「Sheet2」を削除するマクロである。【 ① 】と【 ② 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample6()
    Worksheets("Sheet1").【 ① 】 = "合計"
    Worksheets("Sheet2").【 ② 】
End Sub
```

演習 1-7

次のコードは、新しいワークシートを挿入し、挿入した新しいワークシートの名前を「東京」に変更するマクロである。【 ① 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample7()
    Worksheets.Add
    【 ① 】.Name = "東京"
End Sub
```

2章　Visual Basic Editor(VBE) の操作

演習 2-1

次のコードは、セルの値が 100 のとき、マクロの実行を一時停止してデバッグモードにするマクロである。【　①　】に入る記号を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    If Range("A1").Value = 100 Then 【　①　】
End Sub
```

演習 2-2

イミディエイトウィンドウを使って、アクティブブックに何枚のワークシートが存在するかを調べたい。イミディエイトウィンドウに入力する命令を答えなさい。

演習 2-3

次のコードは、アクティブブックに存在するすべてのワークシート名をイミディエイトウィンドウに出力するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim i As Long
    For i = 1 To Worksheets.Count
        【　①　】.【　②　】 Worksheets(i).Name
    Next i
End Sub
```

3章　プロシージャ

演習 3-1

次のコードは、「Sub Sample1」から「Sub Sample2」を呼び出すマクロである。【　①　】に入る記号を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    【　①　】 Sample2
End Sub

Sub Sample2()
    MsgBox "別プロシージャ"
End Sub
```

演習 3-2

次の「Function Sample4」は、引数として受け取った数値が 100 より大きいときは「Big」という文字列を返し、そうでないときは「Small」という文字列を返す。「Sub Sample3」から「Function Sample4」を呼び出している。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    Dim msg As String
    msg = Sample4(80)
    MsgBox msg
End Sub

Function Sample4(n As Long) As String
    If n > 100 Then
        【　①　】 = "Big"
    Else
        【　①　】 = "Small"
    End If
End Function
```

演習 3-3

次の「Sub Sample5」は、「東京」という文字列を格納した変数「buf」を「Sub Sample6」に渡している。「Sub Sample5」を実行した結果、メッセージボックスに表示される文字列は何か答えなさい。

```
Sub Sample5()
    Dim buf As String
    buf = "東京"
    Call Sample6(buf)
    MsgBox buf
End Sub

Sub Sample6(ByVal msg As String)
    msg = "横浜"
End Sub
```

演習 3-4

次のコードは、文字列の引数「str」と、数値の引数「n」を受け取るマクロである。引数「n」は省略可能であり、省略されたときは「3」が指定されたものとする。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample7(str As String,  【　①　】 n As Long = 3)
    Dim i As Long, msg As String
    For i = 1 To n
        msg = msg & str
    Next i
    MsgBox msg
End Sub
```

4 章　変数と配列

演習 4-1

次のコードは、文字列型の配列「Member」を宣言している。次のうち、配列「Member」の解説として正しいものはどれか答えなさい。

```
Sub Sample1
    Dim Member(3) As String
End Sub
```

1. Member(0)から Member(3)まで 4 つの要素を使用できる
2. Member(1)から Member(3)まで 3 つの要素を使用できる
3. Member(0)から Member(2)まで 3 つの要素を使用できる

演習 4-2

次のコードは、動的配列として宣言した配列「Member」の上限を「3」に定義している。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim Member() As String
     【　①　】 Member(3)
    Member(1) = "秋山"
End Sub
```

演習 4-3

次のコードは、動的配列の要素数を再定義しながら、配列に文字列を格納している。マクロを実行したとき、メッセージボックスに何が表示されるか答えなさい。

```
Sub Sample3()
    Dim Member() As String
    ReDim Member(1)
    Member(1) = "秋山"
    ReDim Member(2)
    Member(2) = "琴吹"
    MsgBox Member(1)
End Sub
```

演習 4-4

次のコードは、動的配列の要素数を再定義しながら、配列に文字列を格納している。要素Member(0)～Member(2)のデータを保持したまま配列の要素数を再定義したいとき、【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    Dim Member() As String
    ReDim Member(2)
    Member(0) = "田中"
    Member(1) = "秋山"
    Member(2) = "琴吹"
    ReDim 【　①　】 Member(3)
    Member(3) = "平沢"
    MsgBox Member(2)
End Sub
```

演習 4-5

次のコードは、静的変数「Counter」を宣言して使用しているマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample5()
    【　①　】 Counter As Long
    Counter = Counter + 1
    MsgBox Counter
End Sub
```

演習 4-6

次のコードは、オブジェクト変数「WS」を宣言して使用しているマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample6()
    Dim WS As 【　①　】
    【　②　】 WS = ActiveSheet
    WS.Name = "合計"
End Sub
```

演習 4-7

次のコードは、オブジェクト変数「WS」を宣言して使用しているマクロである。プロシージャの最後で、使用したオブジェクト変数を解放するとき、【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample7()
    Dim WS As Worksheet
    Set WS = ActiveSheet
    WS.Name = "合計"
    Set WS = 【　①　】
End Sub
```

演習 4-8

次のコードは、ユーザー定義型変数を宣言して使用しているマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
【　①　】 Prof
    Name As String
    Age As Long
End 【　①　】

Sub Sample8()
    Dim Member As 【　②　】
    Member.Name = "平沢"
    Member.Age = 16
End Sub
```

5 章　イベント

演習 5-1

次のコードは、セル A1 の値が変更されたとき、自動的にセル B1 へ「OK」と代入するイベントプロシージャである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub Worksheet_Change(ByVal Target As Range)
    If 【　①　】.Address = "$A$1" Then
        Range("B1").Value = "OK"
    End If
End Sub
```

演習 5-2

次のコードは、ワークシートを印刷しようとしたとき、セル A1 の値をチェックして、もしセル A1 が空欄だったら印刷を中止させるイベントプロシージャである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub Workbook_BeforePrint(Cancel As Boolean)
    If Range("A1").Value = "" Then
        MsgBox "セル A1 が空欄です"
         【　①　】 = True
    End If
End Sub
```

6 章　ステートメント

演習 6-1

次のコードは、セル A1 の値に応じてセル B1 に「OK」または「NG」を代入するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    Select Case 【　①　】
    Case 100
        Range("B1").Value = "OK"
    Case 200
        Range("B1").Value = "NG"
     【　②　】
End Sub
```

演習 6-2

次のコードは、アクティブセルの値に応じてセル B1 に文字列を代入するマクロである。アクティブセルの値が「1 または 3 または 5」のとき、セル B1 に「奇数」と代入し、アクティブセルの値が「10 から 20 の間」のとき、セル B1 に「注意」と代入する。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim buf As Long
    buf = ActiveCell.Value
    Select Case buf
    Case 【　①　】
        Range("B1").Value = "奇数"
    Case 【　②　】
        Range("B1").Value = "注意"
    End Select
End Sub
```

演習 6-3

次のコードは、本日の日付が「15 日以前」だったら「前半」と表示し、本日の日付が「16 日より後ろ」だったら「後半」と表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    Select Case Day(Now())
    Case 【　①　】 <= 15
        MsgBox "前半"
    Case 【　②　】 > 16
        MsgBox "後半"
    End Select
End Sub
```

演習 6-4

次のコードは、本日の曜日が「月または水または金」のとき「可燃ゴミ」と表示し、「火また木」のとき「不燃ゴミ」と表示する。また、それ以外の曜日(土と日)のときは「ゴミ出し禁止」と表示する。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    Select Case Format(Now(), "aaa")
    Case "月", "水", "金"
        MsgBox "可燃ゴミ"
    Case "火", "木"
        MsgBox "不燃ゴミ"
     【　①　】
        MsgBox "ゴミ出し禁止"
    End Select
End Sub
```

演習 6-5

次のコードは、A 列のセルが空欄でない間だけ処理を繰り返すマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample5()
    Dim cnt As Long
    cnt = 1
    Do 【　①　】 Cells(cnt, 1).Value = ""
        Cells(cnt, 2).Value = Cells(cnt, 1).Value
        cnt = cnt + 1
    Loop
End Sub
```

演習 6-6

次のマクロを実行したときの結果がどうなるか答えなさい。ただし、マクロ実行前のセル A1 には 10 が入力されているものとする。

```
Sub Sample6()
    Do
        Range("A1").Value = Range("A1").Value + 1
    Loop While Range("A1").Value < 5
End Sub
```

演習 6-7

次のコードは、A 列のセルが空欄でない間だけ処理を繰り返すマクロである。ただし、たとえセルが空欄でなくても、10 行より下は処理しない。そこで、判定する行が 10 を超えたら Do...Loop ステートメントを強制的に抜けるようにしたい。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample7()
    Dim cnt As Long
    cnt = 1
    Do Until Cells(cnt, 1).Value = ""
        Cells(cnt, 2).Value = Cells(cnt, 1).Value
        cnt = cnt + 1
        If cnt > 10 Then 【　①　】
    Loop
End Sub
```

演習 6-8

次のコードは、セル範囲 A1:A3 の文字色を赤にするマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample8()
    Dim c As Range
    For Each c In Range("A1:A3")
        【　①　】.Font.ColorIndex = 3
    Next c
End Sub
```

演習 6-9

次のコードは、アクティブブックに存在するすべてのワークシート名を調べて、もし「合計」という名前のワークシートが存在したらメッセージを表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample9()
    Dim WS As Worksheet
    For Each WS In 【　①　】
        If WS.Name = "合計" Then
            MsgBox "合計シートは存在します"
            Exit 【　②　】
        End If
    Next WS
End Sub
```

7章　関数

演習 7-1

次のコードは、文字列をカンマで区切って、変数「tmp」に配列として格納し、配列の要素をすべて順番に表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る関数を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    Dim tmp As Variant, i As Long
    tmp = 【　①　】("田井中,秋山,琴吹,平沢", ",")
    For i = 0 To 【　②　】(tmp)
        MsgBox tmp(i)
    Next i
End Sub
```

演習 7-2

次のコードは、セル範囲A1:A10の各セルに入力されている日付の「月」を表す数を隣のB列に代入するマクロである。ただし、A列に「日付ではない」データが入力されていたときのエラーを回避するために、A列のデータが「日付かどうか」を判定している。【　①　】に入る関数を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim i As Long
    For i = 1 To 10
        If 【　①　】(Cells(i, 1)) Then
            Cells(i, 2).Value = Month(Cells(i, 1).Value)
        Else
            Cells(i, 2).Value = "日付ではない"
        End If
    Next i
End Sub
```

演習 7-3

次のコードは、ユーザーが入力した年齢をセル A1 に代入するマクロである。ただし、ユーザーが入力したデータが数値かどうかを判定して、数値でなかった場合はメッセージを表示している。【 ① 】に入る関数を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    Dim buf As String
    buf = InputBox("年齢は？")
    If 【 ① 】(buf) Then
        Range("A1").Value = buf
        Else
        MsgBox "数値を入力してください"
    End If
End Sub
```

演習 7-4

次のコードは、アクティブセルに入力されている日付から起算して、ユーザーが入力した日数後の日付を表示するマクロである。【 ① 】と【 ② 】と【 ③ 】に入る関数を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    Dim n As String
    n = InputBox("何日後？")
    If Not 【 ① 】(n) Then
        MsgBox "数値を入力してください"
        Exit Sub
    End If
    If Not 【 ② 】(ActiveCell.Value) Then
        MsgBox "セルの値が日付ではありません"
        Exit Sub
    End If
    With ActiveCell
        MsgBox 【 ③ 】(Year(.Value), _
                       Month(.Value), _
                       Day(.Value) + n)
    End With
End Sub
```

8 章　エラーへの対応

演習 8-1

次のコードは、アクティブブックに存在する 1 枚目から 3 枚目までのワークシート名をイミディエイトウィンドウに出力するマクロである。このマクロがエラーになるのは、どんなときか答えなさい。なお、スペルミスはないものとする。

```
Sub Sample1()
    Dim i As Long
    For i = 1 To 3
        Debug.Print Worksheets(i).Name
    Next i
End Sub
```

演習 8-2

次のコードは、ブックを開けなかったとき、エラーでマクロが停止するのを防ぎ、ラベル「myError」にジャンプしてメッセージを表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    On Error 【　①　】 myError
    Workbooks.Open "Z:¥存在しないブック.xlsx"
     【　②　】
myError:
    MsgBox "ブックを開けません"
End Sub
```

演習 8-3

次のコードは、ワークシート「Sheet1」の名前を、ユーザーが入力した文字列に変更するマクロである。このマクロは、ワークシート「Sheet1」が存在しないときや、ユーザーがシート名に設定できない文字を入力したときなどにエラーになる。エラーが発生したとき、ラベル「myError」にジャンプして、エラー番号によって異なるメッセージを表示したいとき、【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    On Error GoTo myError
    Dim NewName As String
    NewName = InputBox("新しいシート名は？")
    Worksheets("Sheet1").Name = NewName
    Exit Sub
myError:
    If 【　①　】.【　②　】 = 9 Then
        MsgBox "Sheet1 は存在しません"
    Else
        MsgBox "予期しないエラーです"
    End If
End Sub
```

演習 8-4

次のコードは、アクティブブックに名前を付けて保存するマクロである。すでに同じ名前のブックがある場合、上書き確認のメッセージボックスが表示される。このとき、ユーザーが上書き保存をキャンセルするとエラーが発生するので、そのエラーを無視し、メッセージを表示している。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    On Error 【　①　】
    ActiveWorkbook.SaveAs "Book1.xlsm"
    If ActiveWorkbook.Saved = True Then
        MsgBox "保存されました"
    Else
        MsgBox "保存されていません"
    End If
End Sub
```

9章　UserForm

演習 9-1

次のコードは、UserForm1 を表示するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    UserForm1.【　①　】
End Sub
```

演習 9-2

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、テキストボックス(TextBox1)に入力されている文字列を、ラベル(Label1)に表示するマクロである。
【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    Label1.【　①　】 = TextBox1.【　②　】
End Sub
```

演習 9-3

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、表示している UserForm を閉じるマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    【　①　】 Me
End Sub
```

演習 9-4

UserForm に配置したテキストボックス(TextBox コントロール)で、複数行の入力を可能にするとき、True に設定するプロパティは何か答えなさい。

演習 9-5

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、リストボックス(ListBox コントロール)にデータを追加するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    Dim i As Long
    For i = 1 To 5
        ListBox1.【　①　】 "Sample" & i
    Next i
End Sub
```

演習 9-6

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、リストボックス(ListBox コントロール)で選択されているデータの位置(上から何番目)と、選択されているデータを表示するマクロである。【 ① 】と【 ② 】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    Dim SelectData As String, SelectIndex As Long
    SelectIndex = ListBox1.【 ① 】 + 1
    SelectData = ListBox1.【 ② 】
    MsgBox SelectIndex & "番目の" & vbCrLf & _
           SelectData & "が選択されています"
End Sub
```

演習 9-7

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、3 つのチェックボックス(CheckBox1～CheckBox3)の選択状態を調べて表示するマクロである。【 ① 】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    Dim i As Long, msg As String
    For i = 1 To 3
        If 【 ① 】("CheckBox" & i).Value = True Then
            MsgBox 【 ① 】("CheckBox" & i).Name & "はオン"
        End If
    Next i
End Sub
```

演習 9-8

次のコードは、UserForm に配置したコマンドボタン(CommandButton1)をクリックすると、イメージ(Image コントロール)に画像(C:¥wine.bmp)を表示するマクロである。【 ① 】に入る語を答えなさい。

```
Private Sub CommandButton1_Click()
    Image1.Picture = 【 ① 】("C:¥wine.bmp")
End Sub
```

10 章　メニューの操作

演習 10-1

次のコードは、セルを右クリックしたとき表示されるコンテキストメニューに登録されているコマンド数を表示するマクロである。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    MsgBox 【　①　】("Cell").【　②　】.Count
End Sub
```

演習 10-2

次のコードは、セルのコンテキストメニューに「処理 1」というコマンドを登録するマクロである。「処理 1」をクリックすると、別途作成したプロシージャ「myMacro」が実行される。【　①　】と【　②　】と【　③　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim NewCommand As Object
    【　①　】 NewCommand = CommandBars("Cell").Controls.Add(Type:=msoControlButton)
    NewCommand.【　②　】 = "処理 1"
    NewCommand.【　③　】 = "myMacro"
End Sub
```

演習 10-3

次のコードは、セルのコンテキストメニューに「処理 1」というコマンドを登録するマクロである。「処理 1」の上部には区切り線を引き、120 番のアイコンを表示する。【　①　】と【　②　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    Dim NewCommand As Object
    Set NewCommand = CommandBars("Cell").Controls.Add(Type:=msoControlButton)
    NewCommand.Caption = "処理 1"
    NewCommand.【　①　】 = True
    NewCommand.【　②　】 = 120
End Sub
```

演習 10-4

次のコードは、「Sample4」で追加したコマンド「処理 1」を、「Sample5」で削除するマクロである。「Sample5」では、削除する「処理 1」が間違いなく「Sample4」で追加したコマンドかどうかを確認してから削除している。【 ① 】と【 ② 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    With CommandBars("Cell").Controls.Add(Type:=msoControlButton)
        .Caption = "処理 1"
        .【 ① 】 = "VBA テスト"
    End With
End Sub

Sub Sample5()
    If CommandBars("Cell").Controls("処理 1").【 ① 】 = "VBA テスト" Then
        CommandBars("Cell").Controls("処理 1").【 ② 】
    End If
End Sub
```

11 章　Windows の機能を利用する

演習 11-1

次のコードは、OLE オートメーションを利用して「Windows Scripting Host」の機能を利用しているマクロである。【 ① 】と【 ② 】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    Dim WSH As Object
    【 ① 】 WSH = 【 ② 】("WScript.Shell")
    WSH.Popup "5 秒後、自動的に閉じます", 5, "テスト"
    Set WSH = Nothing
End Sub
```

12 章　レジストリの操作

演習 12-1

次のコードは、レジストリにデータを登録するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    【　①　】 "MyMacro", "Main", "Data", "VBA エキスパート"
End Sub
```

演習 12-2

次のコードは、レジストリに登録されたデータを取得するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    Dim buf As String
    buf = 【　①　】("MyMacro", "Main", "Data", "存在しません")
    MsgBox buf
End Sub
```

演習 12-3

次のコードは、レジストリに登録したデータを削除するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    【　①　】 "MyMacro", "Main", "Data"
End Sub
```

13 章　ファイルの操作

演習 13-1

次のコードは、「C:¥Work¥Sample.txt」から 1 行ずつデータを読み込んで画面に表示するマクロである。【　①　】と【　②　】と【　③　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample1()
    Dim buf As String
    【　①　】 "C:¥Work¥Sample.txt" For 【　②　】 As #1
        Do Until EOF(1)
            Line Input #1, buf
            MsgBox buf
        Loop
    【　③　】 #1
End Sub
```

演習 13-2

次のコードは、「C:¥Work¥Sample.txt」に文字列を書き込むマクロである。【　①　】と【　②　】と【　③　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample2()
    【　①　】 "C:¥Work¥Sample.txt" For 【　②　】 As #1
        Print #1, "Hello"
    【　③　】 #1
End Sub
```

演習 13-3

ファイルを開く Open ステートメントで、ファイルに追記するためのモードは何か答えなさい。

演習 13-4

次のコードは、「C:¥Sample¥Book1.xlsx」を「C:¥Work」フォルダにコピーするマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample3()
    【　①　】 "C:¥Sample¥Book1.xlsx", "C:¥Work¥Book1.xlsx"
End Sub
```

演習 13-5

次のコードは、「C:¥Work」フォルダにある「Book1.xlsx」を「予算管理.xlsx」という名前にリネームするマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample4()
    【　①　】 "C:¥Work¥Book1.xlsx" As "C:¥Sample¥予算管理.xlsx"
End Sub
```

演習 13-6

次のコードは、「C:¥Work¥Sample.xlsx」を削除するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。

```
Sub Sample5()
    【　①　】 "C:¥Work¥Sample.xlsx"
End Sub
```

演習 13-7

次のコードは、「C:¥Work¥Sample.xlsx」の存在を確認するマクロである。【　①　】に入る語を答えなさい。また、「C:¥Work¥Sample.xlsx」が存在した場合、MsgBox で表示される文字列を答えなさい。

```
Sub Sample6()
    Dim buf As String
    buf = 【　①　】("C:¥Work¥Sample.xlsx")
    If buf = "" Then
        MsgBox "存在しません"
    Else
        MsgBox buf    'ここで表示される文字列を ② として答えなさい
    End If
End Sub
```